

12月2日

日本聖公会初代主教ウィリアムズ

Channing Moore Williams

(1829.7.18~1910.12.2)

～道を伝えて己を伝えず～



「チャニング・ムーア
・ウィリアムズ」

アメリカ聖公会の宣教師で、日本聖公会の初代主教であるウィリアムズは、ヴァージニア州のリッチモンドで生まれ、ヴァージニア神学校を卒業する。その後1855年にアメリカ聖公会内外宣教会派遣の宣教師となり、中国へと赴く。

そして1859年7月に、プロテスタント教会による日本最初の宣教師の一人として、長崎に上陸する。当時の日本はまだ禁教下であったが、その中ウィリアムズは、来たるべき宣教の日に備え、日本語の習得に時間を費やしたという。

1865年に中国と日本の伝道主教に推薦された彼は、後に中国と日本の伝道事業を統括することになる。そして1869年、中国から大坂へ渡り活動の拠点を日本に移したウィリアムズは、キリスト教教育に尽力し、英学塾(のちの聖テモテ学校、その後立教と合併)や照暗女学校(現:平安女学院)を創設する。さらに1873年、東京へ行き江戸専任主教となった彼は、1877年に立教女学校(立教女学院の前身)を創設する。

そしてついに1887年2月に日本聖公会は組織として成立することとなる。初代主教に選ばれたのはウィリアムズだった。しかし彼は、その二年後に主教を辞し、一牧者として関西地方で伝道に従事していったという。

「道を伝えて己を伝えず」という言葉は彼の生涯をあらわす言葉として有名なが、彼は自分のことを知られることをとても嫌い、日本から帰国する際に持っていた資料をこごとく燃やしたという。

その生活は「清貧」そのもので、あるとき彼が神戸から船で横浜に向かうとき、あまりのみすぼらしい格好に気の毒になった船長が「上着を裏返して着ると新しく見えますよ」と言ったことがあった。しかし彼はそれに対し「すでに裏返して着ています。もうそれも古くなったんです」と答えた。

また、汽車で移動をいていた時、信者が駅で彼を迎えようとしたとき、彼は二等車から降りて来ずに三等車からおりてきた。どうして二等を使わずに三等を使ったのか尋ねると、「四等がなかったからだ」と答えたらしい。(Y)

<特禱>

全能の神、天の父よ、あなたはウィリアムズ主教を導き、わたしたちの国にも聖公会の礎を据え、福音の光を輝かされました。どうか今、師父を記念し感謝するわたしたちに恵みを与え、わたしたちがその模範にならい、自らを伝えず、福音のみを伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン